

# 府高教 ニュース

2020年10月19日 (月)

速報 No. 4

発行所：大阪府立高等学校教職員組合  
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11  
大阪府教育会館707号  
☎06(6768)2106 FAX 06(6768)1675  
http://osaka-fuko.dyndns.org/  
eメールosakafko@jn3.so-net.ne.jp

## 府教委が再編整備計画の具体化を発表

# 今年度は募集停止の決定を行わない

## —「コロナによる厳しい社会経済状況を踏まえる」

### ■「募集停止案」の見送りは当然

大阪府教育委員会は、10月19日に教育委員会会議を開催し、府立高校・大阪市立高校再編整備計画について、「今年度は募集停止の決定を行わないこととする」との方針を示し、「来年1月の教育委員会会議で最終決定する」としました。その理由について府教委は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響による厳しい社会経済状況の中、中学生やその保護者の不安が高まっている状況を踏まえ」としています。

2014年以来繰り返し返されてきた、「志願者が定員に満たない」ことを理由にした募集停止は、地域の大切な学校をなくし、子どもたちの「学ぶ権利」を奪う、道理のない高校つぶしです。コロナ禍のもと、今回、府教委が、新たな募集停止は廃校案の発表を見送ったのは当然のことであり、道理のない高校つぶしに反対し、府民的運動を構築してきたこれまでの私たちのとりくみの反映です。同時に、府教委は、2019年度から5年間に「府立・市立あわせて新たに8校を募集停止する」との再編整備計画の見直し自体については言及しておらず、複数の学校が府立学校条例の定める「3年連続して志願者が定員に満たない」状況となっている中、次年度以降を含め、予断を許しません。

### ■「定員」を理由にした高校つぶしに道理なし

そもそも、進学を希望する子どもたちの「学ぶ権利」保障のために設置されている公立高校の「定員」は、ゆとりがあつて当たり前です。府教委も、毎年の募集学級数決定にあたっては、「進学セーフティネット」として、公立・私立をあわせた募集人数が進学予定者数を上回るように調整を行っています。一定の学校が「定員に満たない」状況となるのは、「進学したくても行き場のない子」を出さないための「安全装置」であり、それを理由に高校をつぶすことには、道理がありません。

また、通学区の廃止、進学指導特色校設置など競争を煽る施策によって受験競争が広域化・激化し、全府域で学校の序列化がすすんだもとは、「定員に満たない」状況となるのは、府の周辺部に位置し「地域の学校」として役割を果たしている学校や、苛烈な受験競争のなか高校進学を希望する子どもたちの「受け皿」となっている学校です。これらの学校を廃校にすれば、「近くに通える学校がない」子どもたちが生み出され、「学ぶ権利」が侵害されることは明らかです。

### ■「20人学級」の実施こそ行うべき

いま、コロナ禍を契機に、「密」を避け、一人ひとりに行き届いた教育を保障できる「20人学級」などの少人数学級の実施を求め、国民世論が高まっています。国も制度改善に向けて動き始めました。府立・大阪市立8校廃校の方針は撤回し、府立高校の施設・設備を維持・改善し、少人数学級の実施、全国から突出して大規模な学校規模の縮小など、教育条件の改善こそ行うべきです。また、道理のない高校つぶしの元凶となっている府立学校条例の規定をただちに撤廃すべきです。

### ■淀工・堺工・布施工の改編、GLHS指定も示す

19日の教育委員会会議では、淀川工科、堺工科、布施工科の3校の改編についても示されました。これは、2018年度に決定された再編整備計画に基づき、2020年度から3校ずつ実施されている工科高校の3つの重点化タイプ（高大連携、実践的技能養成、地域産業連携）への改編の具体化で、今年度の3校の改編は2022年度からの実施とされています。また、会議では2021年度から三年間のグローバルリーダーズハイスクールの指定についても示され、現行の3校（北野、豊中、茨木、大手前、四條畷、高津、天王寺、生野、三国丘、岸和田）が再指定されました。